

各地のたより



三月二二日、徳島森林管理署において「つるぎ町赤帽子地区民国連携プロジェクトに関する協定」の締結式が行われました。

協定は、つるぎ町一字の赤帽子山（一，六一一m）北面に広がる民有林とその上部に位置する国有林をフィールドに、民国連携を図るためのモデルケースとして、二年にわたって検討してきたものです。

徳島県が進める「次世代林業プロジェクト」では、施業を集約化する「高効率団地」を県下に六〇配置することとしており、赤帽子山北面には八七八haの高効率団地が設定されています。

当署が所管する実平、広沢国有林（二九四ha）は、民有林の上部に带状に分布しており、中腹を横断する民有林林道から遠いため、利用間伐は実施できませんでしたが、林道から国有林境界近くまで民有林で開設された作業路網が利用できれば、利用間伐を実施できることとなります。

このため、徳島県西部総合県民局、地元のつるぎ町、間伐を実施している美馬森林組合を交えて、現地検討会や協議会を積み重ね、合理的な路網や効率的な間伐などの森林整備を民国が連携して実施できるよう、森林共同施業団地を設定することになったものです。

協定式のため、西部総合県民局農林水産部長、つるぎ町農林課長、美馬森林組合代表理事組合長が、来署し、趣旨説明のあと、協定書を取り交わし、四者でがっちり握手をして協定を確認し合いました。

の推進方策として、森林共同施業団地の設定が有力な手法ですが、今回の協定の相手方は、一般的な民有林を対象としたものであり、国有林は一般的に民有林よりも高標高地域に賦存していることから、全国的な民

今回の協定では、包括的な協力・信頼関係を結び、当面、利用間伐など、今後五ヶ年間で実施可能な事業計画を立てていますが、協定を推進・深化していく中で、国有林として民有林に貢献できる手立てを具体的に提示していく必要があると考えています。



赤帽子民国連携プロジェクト
協定締結後

左側から、西部総合県民局農林水産部長、つるぎ町農林水産課長、美馬森林組合代表理事組合長、前三谷徳島森林管理署長



地元説明会の様子

地元説明会の開催

〈徳島森林管理署〉



三月二六日の夜、三好市東祖谷新居屋公民館で、新居屋地区の防災対策に関する地元説明会を開催しました。

新居屋地区は、当署が昭和三五年から治山事業を、

昭和三九年からは直轄地すべり防止事業を実施してきました。

このような中で、土石流対策として国土交通省の砂防ダム計画が持ち上がり、交渉の結果、砂防ダム計画は撤回されることになりましたが、地元の不安感を払拭し、今後の事業実施に理解と協力をいただくために、地元説明会を開催したものです。

説明会には、当署のほか、局治山課の担当官、三好市東祖谷総合支所、地元から区長ほか住民約二〇名が参加しました。

初めて、当署からこれまでの経過及び国土交通省との対応状況を説明し、三月七日に新居屋地区の現地調査を行った森林総合研究所山地災害研究室長及び林野庁治山課のアドバイザーを踏まえた防災対策の考え方を説明しました。

説明後の質疑では、地元住民から老朽化した既存施設の手当てや詳細な調査を望む要望が出され、特に上水道のない当地区での飲料水の確保は切実な問題として提起されましたが、当署の取り組み方向については、極めて好意的に受け入れていただいたと受け止めています。

今後、新居屋地区では、地元の安全・安心を確保するために、土石流対策を加

味した防災対策を実施するための全体計画等を策定することとしています。新居屋地区や三好市と密接な連携のもと、スピード感を持って防災対策を実施したいと考えています。

「社会貢献の森」で間伐

〈香川森林管理事務所〉



三月九日、綾歌郡綾川町の檜原国有林にある「社会貢献の森・菅組 感謝の森」において、社員一二名による第一回目の森林整備活動が行われました。

菅組は、創業が明治四二年、およそ一〇〇年の歴史を持つ総合建設会社で

あり、ヒノキ人工林の整備を通じて、社員の環境保全意識の向上を図るとともに、木の建築をつくり続けることに同時に木を育てることに関わることで「木とともに」生長する企業としての自覚を深めることを目的として、平成二四年七月に、檜原国有林四二林班と8小班二・三九ヘクタールを対象として、社会貢献の森の協定を締結したものです。

今回が協定締結後、第一回目の森林整備活動ということで、当所からも、間伐の方法や選木の仕方、安全に関する指導のため参加しました。

当該箇所はヒノキ二七年生の林分で、作業の際の間

伐木選定が容易なように、事前に標準地を設定し、その区域内での間伐木を対象に作業をしてもらいました。

についての指導があり、参加された社員の皆さんが一人ずつチェンソーや手鋸による間伐を行いました。

作業区域や内容の説明後に、菅組の森林整備活動の指導者である地元林業家の豊田均さんから、チェンソー・手鋸による伐倒方法

は、「思うように倒れない」、「思った方向に倒れない」といった声が聞かれましたが、作業が進むにつれ、徐々に伐倒方向も定まってくるようになりました。



間伐作業の様子

作業終了後、菅社長から、今後も会社の社会貢献活動の一環として森林の保全・整備に取り組ん

で行きたいとの言葉があり、当所としても引き続き活動に対して協力していくこととしています。



当署の管理する国有林が

多くを占める足摺岬周辺は、ヤブツバキの群落が花を咲かせ、毎年、三月頃、花の見頃となり、道中にある梅や菜の花も彩りを添え一足早く春がやって来ます。

このたび、当署では、足摺岬にある足摺亜熱帯自然植物園の案内看板と説明板の立替を行いました。



リニューアルされた足摺亜熱帯自然植物園の看板

これまでの看板は、潮風とシロアリにより老朽化が進み、転倒の危険も見受けられ始めたことから、二四

年度足摺亜熱帯自然植物園整備事業の一環として実施したもので、春の観光シーズンまでに交換を完了することができました。

当植物園は、足摺大堂

また、昭和天皇の行幸を賜った歴史も有していますが、一般にはあまり存在を知られていませんが、県外からの熱心な植物愛好家や学生の研究の場としての入園や問い合わせも

自然休養林の施設として昭和四八年に開設し、足摺半島に自生している貴重な植物を自然のままの形で約五〇〇種が植栽され、南国色豊かな自然の憩いの場と

あるところ です。

植物園のある足摺半島一

帯は、四国最南端の足摺岬
を中心に、雄大な太平洋を
望む自然が広がり、貴重な
シイを主体とする照葉樹林
の原生林です。秋にはヤッ
コソウが顔を出す佐田山保
護林や、巨石文明の名残と
もいわれる唐人駄馬遺跡、
四国八十八カ所霊場の金剛
福寺、波瀾万丈の人生をた
どった土佐が生んだ幕末の
偉人、ジョン万次郎にまつ
わる史跡や、温泉も多くあ
り、通年を通して多くの観
光客が訪れています。

足摺観光においでの際に
は是非共お立ち寄り下さ
い。



祖谷川治山事業所名称変更

〈徳島森林管理署〉

徳島県三好市東祖谷地区で
は、昭和二七年より民有林内



三好市東祖谷総合支所橋本氏
(左側)と堀徳島森林管理署
長(右側)による看板の掛け
替え。

において、地域災害復旧対策
として直轄治山事業を祖谷川
第一治山事業所、第二治山事

業の両事業所により整備を
行ってきましたが、直轄治山
事業での整備終了に伴い、平
成二四年度末をもって治山施
設を徳島県に引き渡すこと
になりました。

四月一日からは、名称を新
たに祖谷川治山事業所とし、
当該事業区域内の地すべり防
止事業を、今後も計画に基づ
き行っていく事業所として
スタートすることとなりま

した。

今後整備していく地すべり
区域内には、国道など主要道
路も横断し、また集落等も多
数あり、地元から対策工事の
声が高いところでもありま
す。

四月九日には、三好市東祖
谷総合支所長橋本氏と堀徳島
森林管理署長により、新しい
看板の掛け替え式が行われ、
六〇年間、地元の整備を行っ
て頂いた感謝とともに、今
後も地元の災害、防災対策を
しっかり行って頂きたいとの
要請を受けました。

徳島森林管理署では、地元
関係団体との連携を深め、整
備を進めて行きたいと考えて
います。